

令和元年度 生涯学習の推進に関する市町村調査 取りまとめ結果

(環境生活政策課実施)

1. 目的 『岐阜県生涯学習振興指針』の最終年度にあたる平成23年度・平成28年度市町村調査と比較し、改定後3年目となる令和元年度の市町村における生涯学習の推進状況を把握する。
2. 対象 ○県内42市町村 (回答率 100%)
○公民館・コミュニティセンター等、県内の生涯学習施設 (回答率 50.5%)
※生涯学習施設の回答率については、「生涯学習施設等調査(平成31年4月実施)」で各市町村から報告された生涯学習施設137施設、「社会教育調査(令和元年7月実施)」で各市町村から報告された公民館272施設に、当調査にご回答いただいた図書館等の生涯学習施設13施設を加えた422施設を母数として算出
3. 時期 ○生涯学習・社会教育振興施策に関する基礎資料の作成に係る調査(文部科学省実施)
今年度は実施見送り
○生涯学習の推進に関する調査(県実施)
令和元年12月16日～令和2年1月20日
○生涯学習講座に関する調査(県実施)
令和元年12月16日～令和2年1月31日

※岐阜県生涯学習振興指針について

県の生涯学習振興施策の方向性や基本方針を定めたもの。

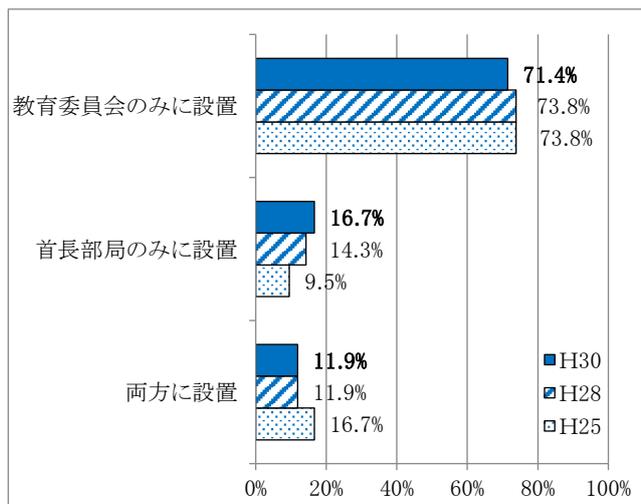
平成19年に策定した指針において「地域づくり型生涯学習」の推進を初めて打ち出し、その後の2度にわたる改定においても、「地域づくり型生涯学習」を引き続き推進するものとした。

- ・平成19年3月策定 「岐阜県生涯学習振興指針 ～地域づくり型生涯学習の推進～」
- ・平成24年3月改定 「岐阜県生涯学習振興指針 ～「地域づくり型生涯学習」による地域の「絆」とコミュニティの再構築～」
- ・平成29年3月改定 「岐阜県生涯学習振興指針 ～「地域づくり型生涯学習」の推進による「清流の国ぎふ」づくり～」

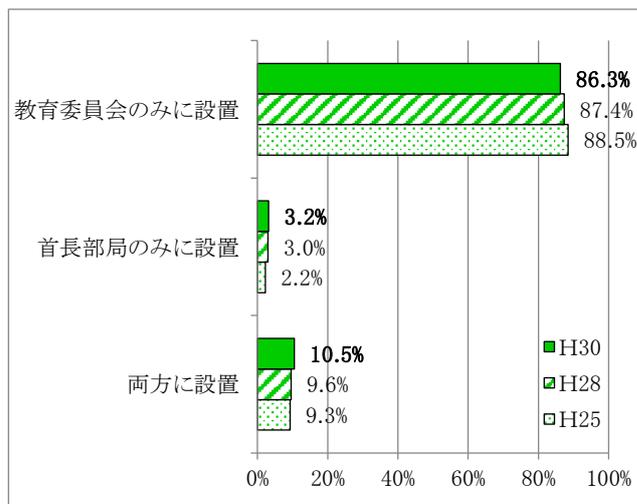
A	生涯学習の推進体制の整備について	P 1～
B	生涯学習の推進について	P 4～
C	「地域づくり型生涯学習」の推進について	P 10～
D	人材の育成・活用について	P 16～
E	『岐阜県生涯学習振興指針』に基づいた各種事業について	P 18～

A 生涯学習の推進体制の整備について

1 生涯学習・社会教育担当部課の設置状況



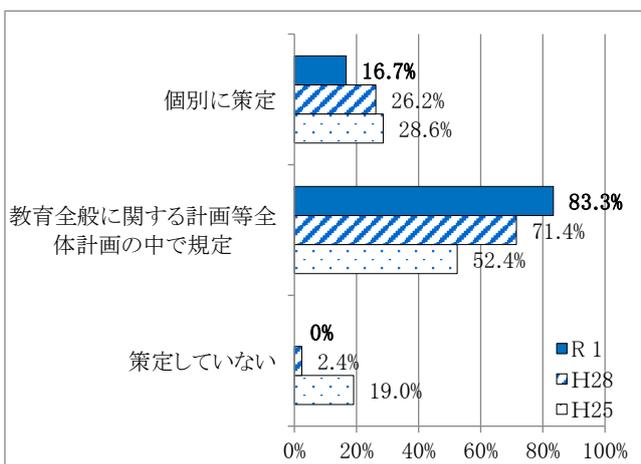
<参考>国内（区・市町村（政令指定都市含む））の設置状況



※例年「生涯学習・社会教育振興施策に関する基礎資料の作成に係る調査」（文部科学省実施）に本項目があるが、今年度は調査の実施が見送りとなったため、H30年度のデータが最新となっている。

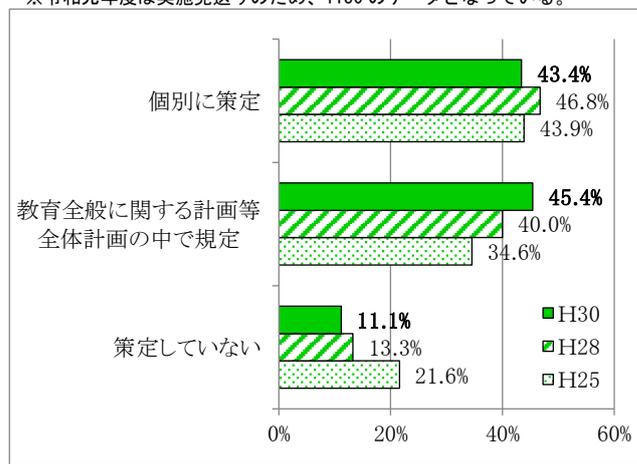
- 生涯学習・社会教育担当部課を、教育委員会のみを設置している市町村は、県・全国共に減少傾向にある。一方、首長部局のみを設置している市町村は増加傾向にある。
- 従来、教育委員会が生涯学習及び社会教育の両分野を一括所管している場合が多かったが、地域振興施策の側面から、生涯学習（主にスポーツ、文化等の領域）を首長部局で所管する市町村が増加していると推測される。

2 生涯学習振興計画等の有無



<参考>国内（区・市町村（政令指定都市含む））の策定状況

※令和元年度は実施見送りのため、H30のデータとなっている。

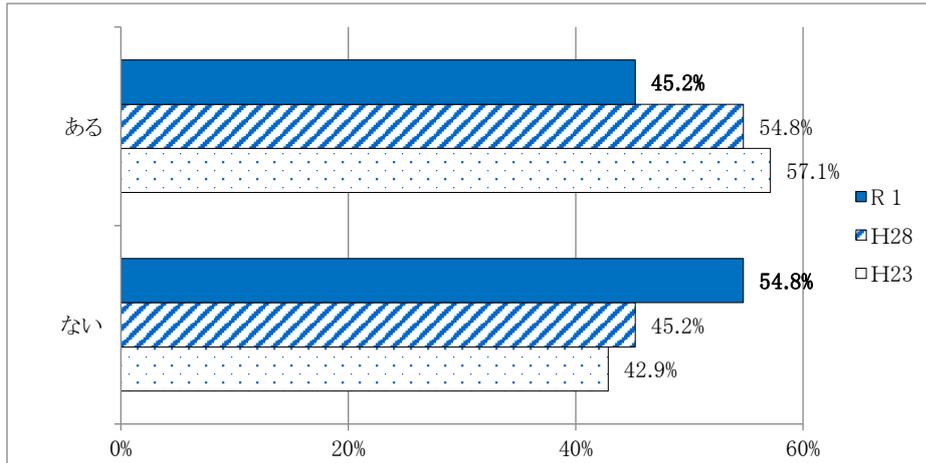


- 全市町村が、生涯学習振興計画等を策定・規定しているが、生涯学習に資する計画等を教育全般に関する計画等と別に策定している市町村は減少傾向にある。
- 全国的にも同様の傾向が見られるが、生涯学習に関する初めての法律となる『生涯学習振興法（平成2年6月）』が制定されて約30年経過する中で、生涯学習が政策の重点として位置付けられなくなってきたことが背景にあると推測される。

◇生涯学習振興計画等の名称

圏域	市町村名	振興計画等の名称	対象年度
岐阜	岐阜市	第3次岐阜市生涯学習基本計画	2018 ~ 2027
	羽島市	羽島市生涯学習都市づくり5カ年計画	2015 ~ 2019
	各務原市	第2期各務原市教育振興基本計画	2015 ~ 2019
	山県市	山県市教育振興基本計画	2015 ~ 2019
	瑞穂市	瑞穂市教育振興基本計画	2017 ~ 2020
	本巣市	本巣市教育基本計画（後期）	2015 ~ 2019
	岐南町	岐南町第5次総合計画	2010 ~ 2019
	笠松町	笠松町第5次総合計画	2011 ~ 2020
	北方町	北方町教育振興基本計画	2017 ~ 2024
西濃	大垣市	大垣市教育振興基本計画	2010 ~ 2020
	海津市	第2次海津市教育振興基本計画	2019 ~ 2023
	養老町	養老町の教育	2019 ~ 2019
	垂井町	垂井町第二次教育ビジョン	2018 ~ 2022
	関ヶ原町	関ヶ原町教育大綱	
	神戸町	神戸町社会教育計画	2019 ~ 2019
	輪之内町	輪之内町社会教育計画	2019 ~ 2019
	安八町	安八町生涯学習計画	2019 ~ 2019
	揖斐川町	揖斐川町教育大綱	2016 ~ 2025
	大野町	大野町教育大綱	2015 ~ 2019
	池田町	池田町社会教育計画	2019 ~ 2019
中濃	関市	関市教育振興計画	2017 ~ 2021
	美濃市	第2次美濃市生涯学習マスタープラン	2013 ~ 2022
	郡上市	郡上市教育振興基本計画	2019 ~ 2024
	美濃加茂市	美濃加茂市教育振興基本計画（FROM-0歳アクションプラン）	2014 ~ 2019
	可児市	可児市教育基本計画（後期計画）	2016 ~ 2019
	坂祝町	美濃加茂市・坂祝町生涯学習推進基本計画	2012 ~ 2019
	富加町	富加町第五次総合計画	2016 ~ 2019
	川辺町	川辺町第5次総合計画	2015 ~ 2024
	七宗町	七宗町第五次総合計画	2016 ~ 2025
	八百津町	八百津町第5次総合計画	2017 ~ 2020
	白川町	白川町教育振興基本計画「夢プラン」	2011 ~ 2020
	東白川村	東白川村第5次総合計画	2015 ~ 2022
	御嵩町	21世紀御嵩町教育・夢プラン 第三次改訂	2016 ~ 2020
東濃	多治見市	多治見市第7次総合計画	2016 ~ 2023
	土岐市	土岐市教育振興基本計画「夢・絆プラン」	2015 ~ 2019
	瑞浪市	瑞浪市教育振興基本計画 みずなみ教育プラン 後期計画	2019 ~ 2023
	恵那市	恵那市三学のまち推進計画	2016 ~ 2020
	中津川市	中津川市教育振興基本計画	2015 ~ 2026
飛騨	高山市	高山市教育振興基本計画	2015 ~ 2019
	飛騨市	飛騨市教育振興基本計画	2013 ~ 2022
	下呂市	下呂市第二次総合計画	2015 ~ 2024
	白川村	白川村第6次総合計画	2015 ~ 2019

3 地域住民や関係団体の代表者などで構成する生涯学習審議会等の組織の有無
(社会教育委員の会は除く)



○平成28年度に比べ、4団体減少した。

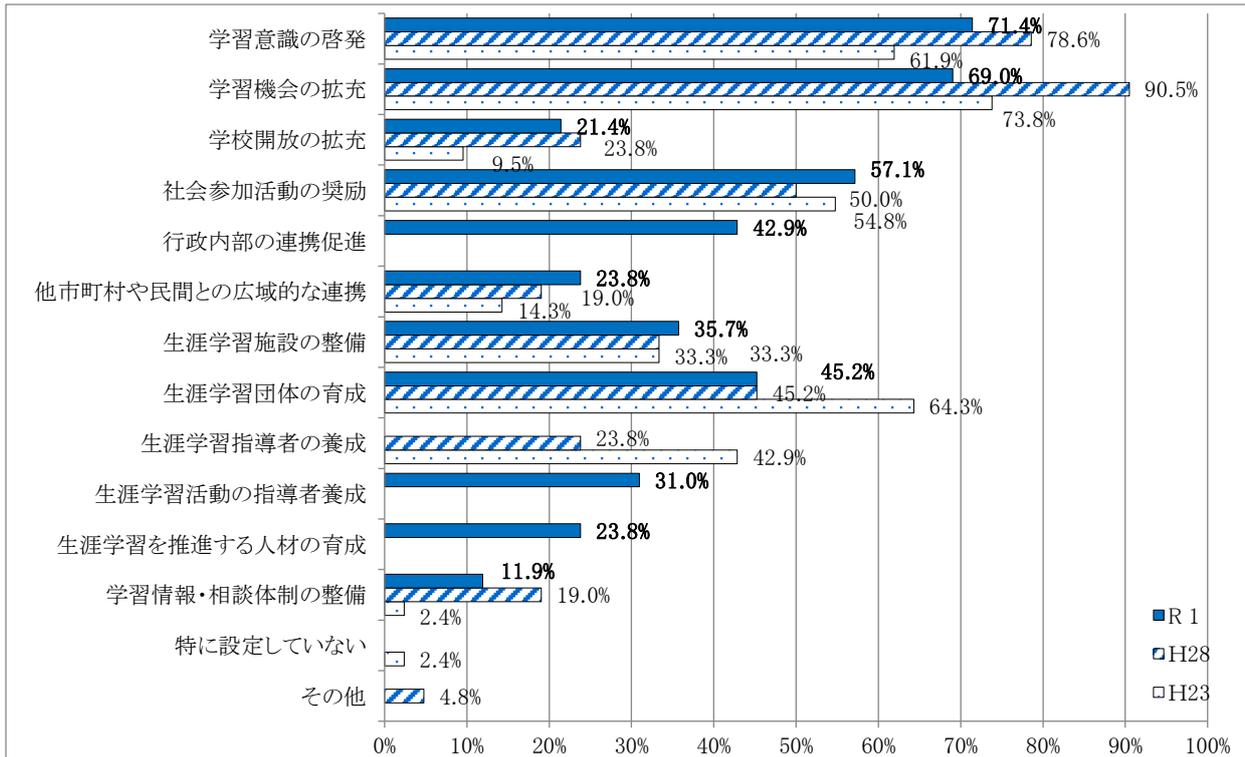
○公民館に関わる組織を回答する市町村が多いことから、公民館が地域住民の学びの拠点として重要な役割を果たしていることがわかる。(下表参照)

◇地域住民や関係団体の代表者などで構成する生涯学習審議会等の組織の名称

圏域	市町村名	組織の名称
岐阜	岐阜市	岐阜市民生涯学習推進協議会
	羽島市	羽島市生涯学習都市推進会議
	各務原市	各務原市生涯学習推進協議会
	山県市	中央公民館運営審議会
	本巣市	本巣市民文化ホール運営協議会
	笠松町	公民館運営審議会兼生涯学習推進会議
西濃	養老町	「親孝行と生涯学習を進めるまち養老」町民会議
	垂井町	垂井町地区まちづくり協議会
	関ヶ原町	歴史講座推進委員会
中濃	美濃加茂市	美濃加茂市生涯学習審議会
	富加町	生涯学習アドバイザーの会
	川辺町	公民館運営審議会
	白川町	公民館活動推進委員会
	御嵩町	御嵩町教育委員会点検評価会議
東濃	土岐市	土岐市公民館運営審議会
	恵那市	三学のまち推進委員会
	中津川市	中津川市公民館運営審議会
飛騨	高山市	高山市生涯学習施設運営審議会
	飛騨市	飛騨市生涯学習推進会議

B 生涯学習の推進について

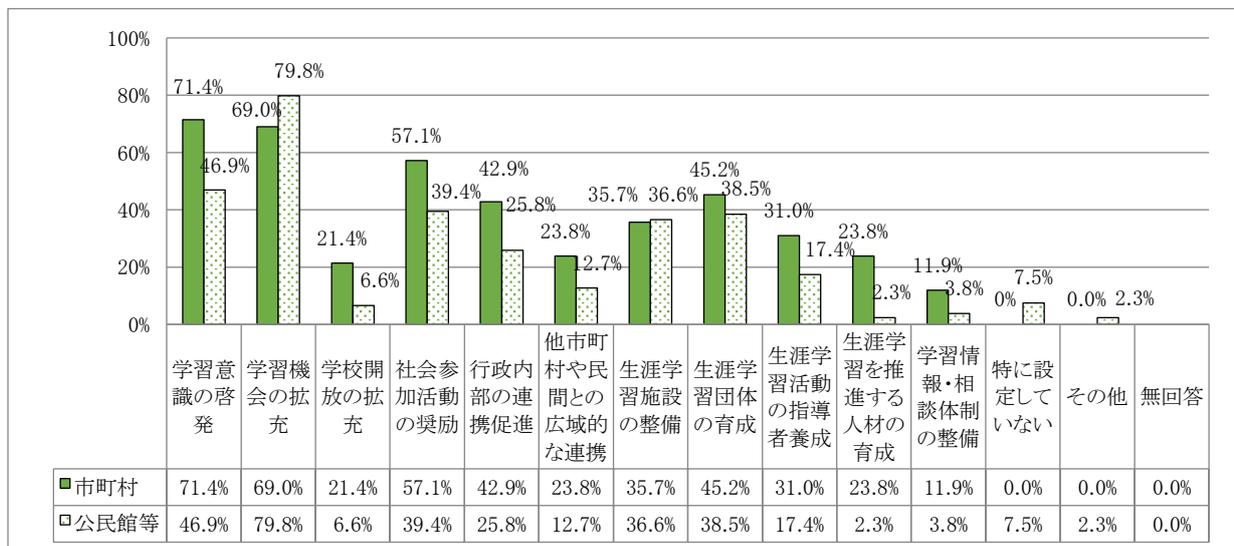
4 生涯学習を推進する上での重点（複数回答）



(※昨年度の調査から、「行政内部の連携促進」を新たな項目として追加。また、「生涯学習指導者の養成」を、「生涯学習活動の指導者養成」と「生涯学習を推進する人材の育成」に区分して調査を実施。)

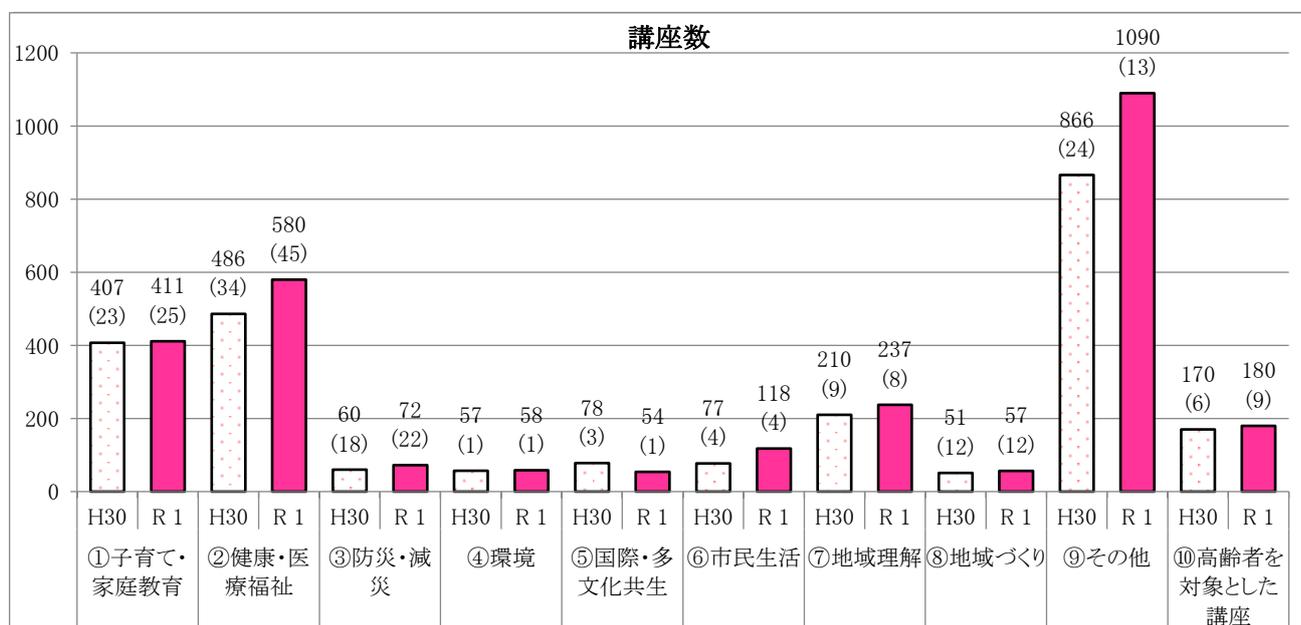
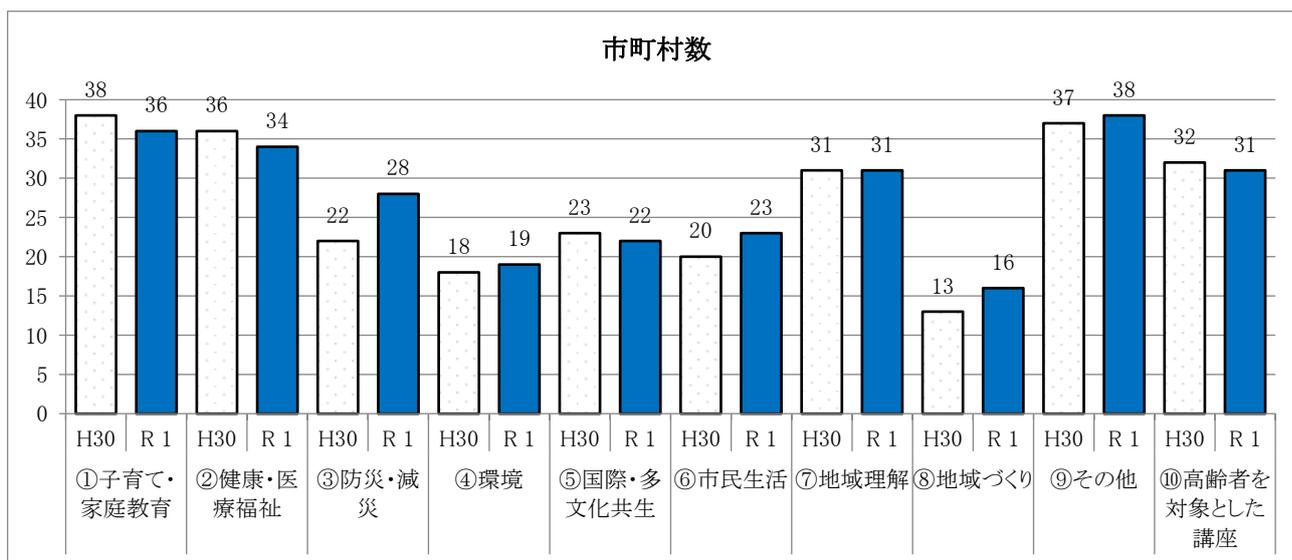
- 学習意識・機会等の生涯学習に取り組むきっかけ作りから、社会参加活動の奨励や内・外部との連携に重点が推移していることがわかる。
- 人材育成については、「生涯学習活動の指導者養成」の方に重点が置かれていることから、「生涯学習の推進」以前の課題として、講座開催に係る人材確保に苦慮している実態が浮かび上がってくる。(→ P.8「7. 生涯学習推進上の課題」参照)

< 公民館等生涯学習施設との比較 >



- ほとんどの項目について、生涯学習施設の方が行政よりポイントが低く、特に重点を設定していない施設もある。

※ 1 分野別生涯学習講座の開講状況（「生涯学習講座に関する調査(12月実施)」より）



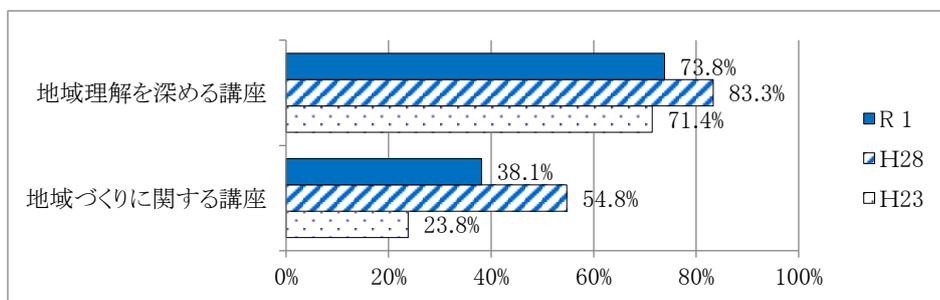
- ①子育て支援、親子交流、青少年教育・家庭教育など、保護者または親子を対象とした講座
 ②スポーツや食生活、医療など、健康の増進及び維持管理を目的とする講座や生活支援や、高齢者支援など福祉に関する講座
 ③自然災害（地震・風水害など）への対策を内容とする講座
 ④環境問題、省エネ・省資源、リサイクル、ごみ問題、自然環境保全など、環境に関する内容を扱う講座
 ⑤在住外国人との交流、在住外国人の生活支援など、異文化理解及び多文化共生を目的とする講座（語学も含む）
 ⑥政治・経済、消費生活、防犯、交通、人権など、上記①～⑤以外の分野で市民生活に関わる内容を扱う講座
 ⑦地域の自然、歴史、文化・伝統、偉人、産業、郷土料理などを扱い、地域理解を目的とする講座
 ⑧特定の地域課題を設定せずに行う地域づくりに関する講座（※特定の地域課題を設定して行う場合は、上記①～⑥に分類）
 ⑨上記の①～⑧に分類できない趣味・教養に関する講座（公民館等で行われているサークル活動は除く）
 ⑩高齢者を対象とした講座（再掲含む）

※講座数の（ ）内の数は、子育て支援ボランティアや生活支援サポーター等、具体的な「人づくり」を目的とした講座の数

○平成30年度同様、「①子育て・家庭教育」、「②健康・医療福祉」分野は、実施市町村数・講座数が多く、地域住民の需要が高いことがわかる。

○①～⑧に分類できないような、工夫を凝らした多種多様な講座が企画・運営されていることがわかる。

※2 「地域理解」や「地域づくり」に関する講座の開催状況



※H23年度とH28年度の調査では、子育て支援や地域防災等の特定課題の解決を図る講座も「地域づくりに関する講座」に含んでいる。

地域理解を深める講座：31市町村で237講座（H23：30市町村で70講座、H28：35市町村で77講座）

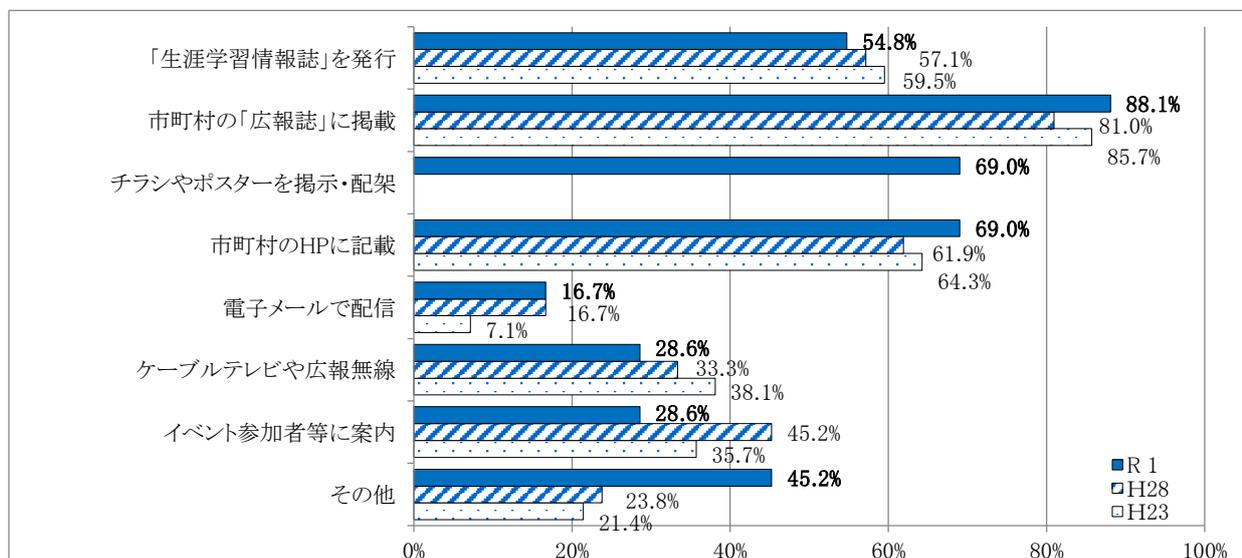
○講座数は大幅に増加。

○史跡巡りや自然探索など現地に出向いて学ぶ講座、地域食材を用いた料理教室、伝統行事への参加、伝統工芸品づくりといった体験型講座など、工夫された講座が増えている。

地域づくりに関する講座：16市町村で57講座（H23：10市町村で16講座、H28：23市町村で47講座）

○「子育て・家庭教育」、「健康・医療福祉」等、特定の地域課題を設定して行う講座が増加する一方、地域住民が自ら地域課題を見つけ、地域課題の解決に向けた取組を企画するような講座は、それほどの増加傾向が見られない。

5 生涯学習の講座やイベントの広報手段（複数回答）



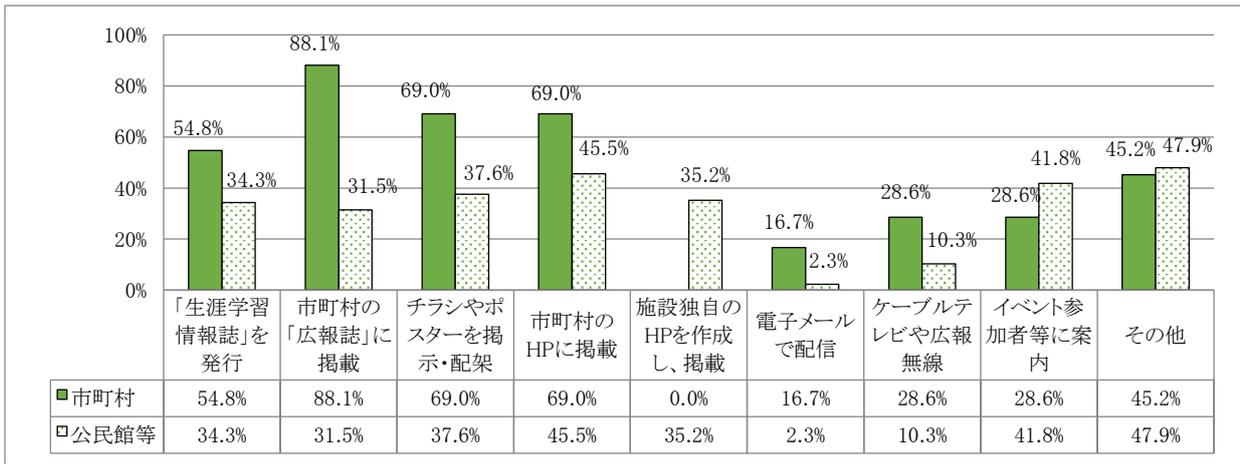
※昨年度調査から、「チラシやポスターを掲示・配架」を新たな項目として追加。）

○生涯学習情報誌の刊行は、減少傾向にある。

○広報誌への掲載、チラシやポスターの掲示・配布、HPへの掲載といった大量伝達手段が主流となっている。一方で、イベント参加者に案内する等の対面での周知はポイントが減少している。

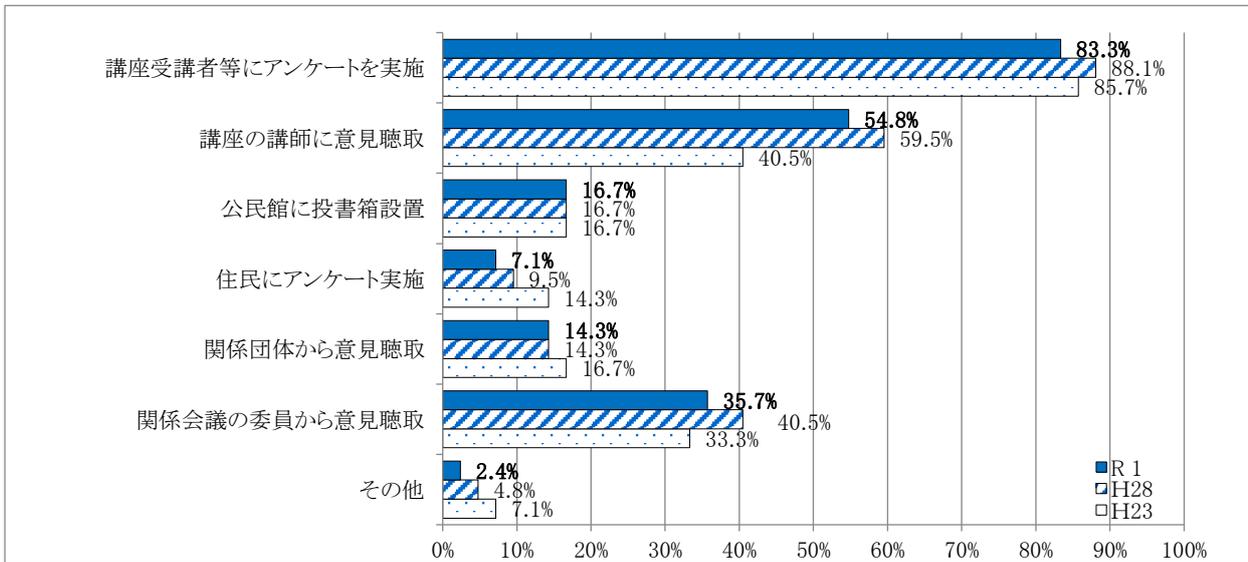
○「その他」としては、学校やまちづくり協議会を通じたチラシ配布や、自治会の回覧を活用するなど、関係機関・団体と連携した広報が多く見られる。

<公民館等生涯学習施設との比較>



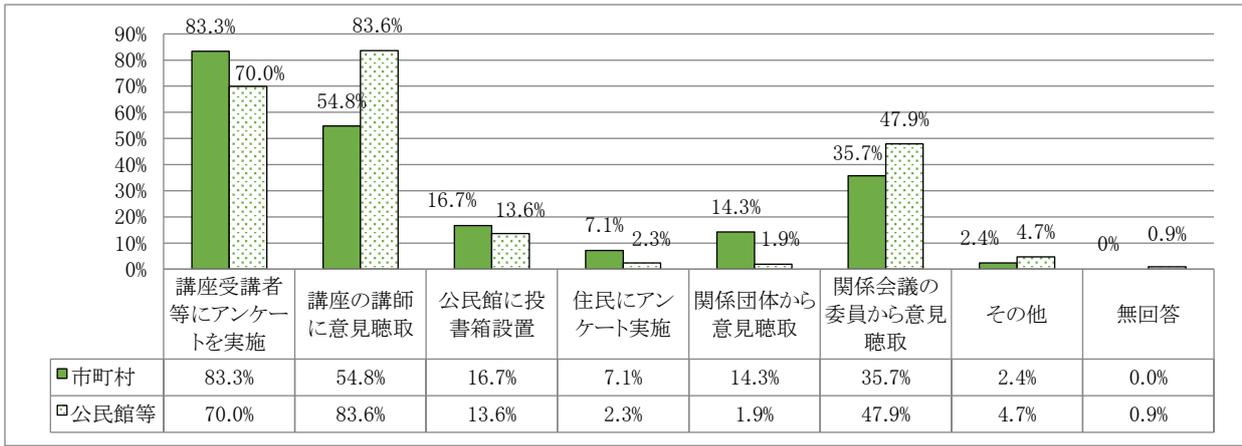
- 施設独自のHPを作成し、講座やイベント等の情報を掲載するなど、積極的な情報発信を展開している施設がある一方、「市町村の広報誌に掲載」、「市町村のHPに掲載」は、いずれも50%未満となっており、行政機関との連携及び情報共有が課題となっている。
- 生涯学習施設は、講座やイベント参加者に案内する等の対面での周知のポイントが高く、施設利用者に直接周知できる点が強みであるといえる。
- 「その他」については行政と同様、学校や自治会を通じた広報が多く見られた。

6 生涯学習関連事業を進めるうえでの住民ニーズの把握方法（複数回答）



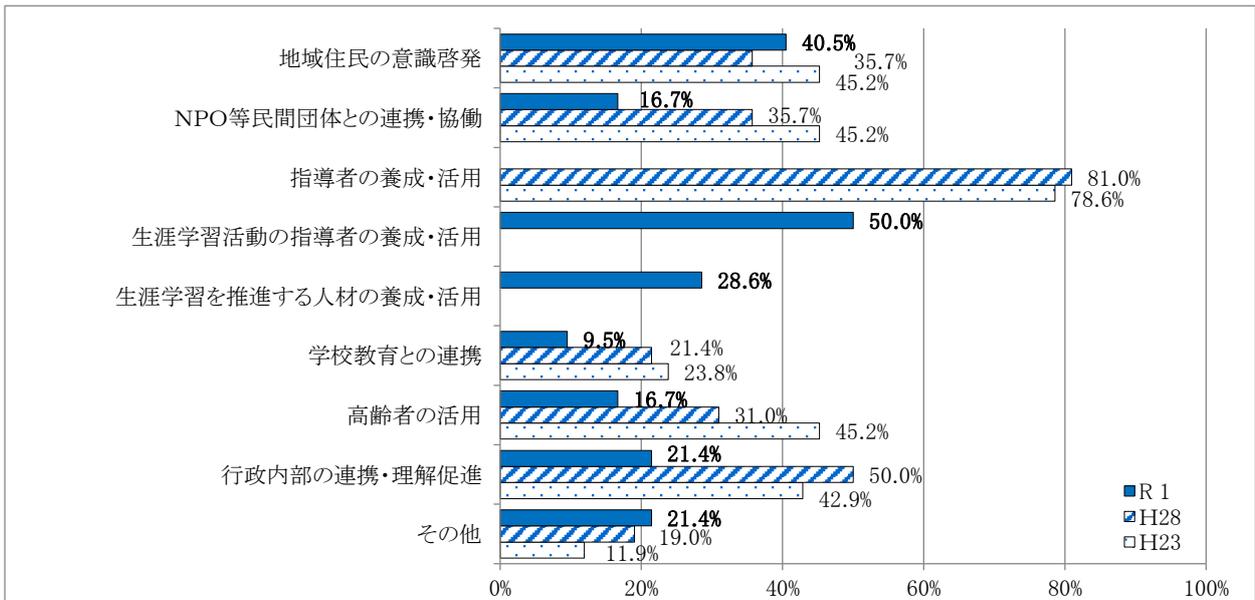
○講座受講者へのアンケートや講師からの意見聴取は減少しているものの、引き続き割合は高い傾向にある。一方で、住民へのアンケート、関係団体・関係会議の委員からの意見聴取など、幅広い層からの意見聴取は減少傾向にある。

＜公民館等生涯学習施設との比較＞



- 生涯学習施設は、市町村に比べ講座講師への意見聴取の割合が非常に高い。
- 生涯学習施設では、公民館運営審議会・協議会等の関係会議が重要な情報源となっている。
- 「その他」として、クラブ・サークル活動者や来館者等に口頭で直接意見を聞くなどの回答が多くあり、地域住民とのコミュニケーションを大切にしている姿がうかがえる。

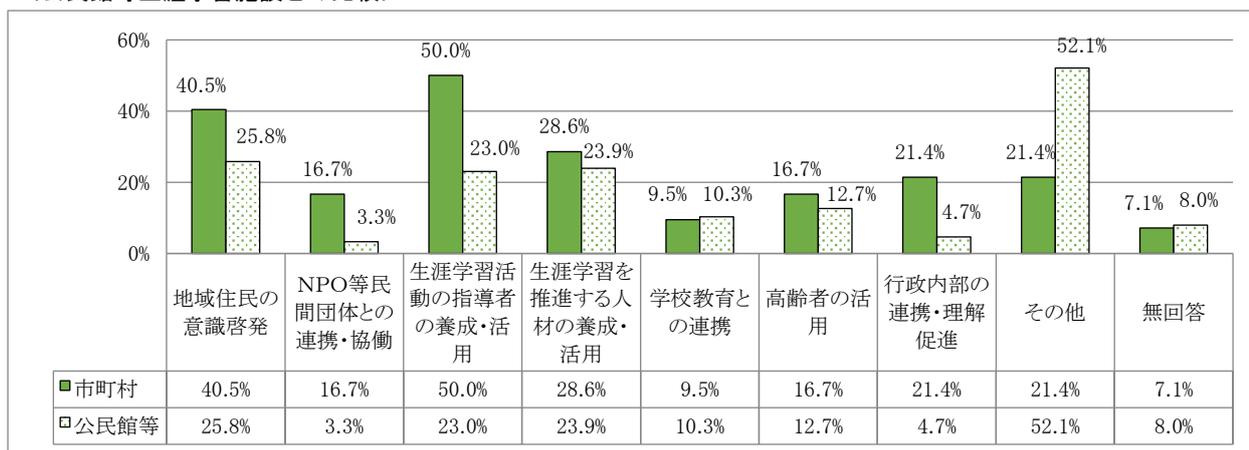
7 生涯学習推進上の課題（複数回答）



(※昨年度調査から、「指導者の養成・活用」を、「生涯学習活動の指導者養成」と「生涯学習を推進する人材の育成」に区分して調査を実施。)

- ほとんどの項目でポイントが大幅に減少する中、「地域住民の意識啓発」が増加している。
- 例年と同様に、人材育成が大きな課題となっており、特に「生涯学習活動の指導者の養成・活用」が喫緊の課題となっている。(→ P.4「4. 生涯学習を推進する上での重点」参照)
- 「学校教育との連携」については、年々ポイントが減少していることから、コミュニティスクールや地域学校協働活動等が展開される中で、連携が進みつつあると推測できる。
- 「その他」として、財政縮小等による担当職員の減員や施設の老朽化等、管理・運営上の課題が多く見られた。

＜公民館等生涯学習施設との比較＞



- 生涯学習施設は、市町村に比べ「地域住民の意識啓発」や人材育成を課題とする割合が低い。
- 「その他」として、今後の公民館の役割を考えた上で、所管を首長部局へ移すことの検討や、財源の不足や施設の老朽化等、施設運営上の課題が多く見られた。

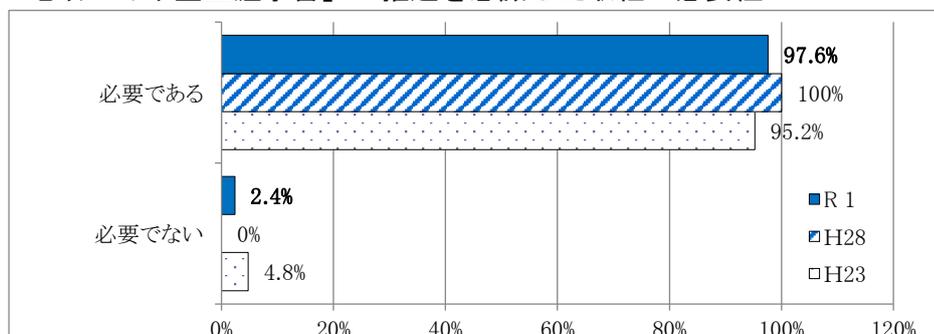
(参考) 生涯学習推進上の具体的課題 (回答より一部抜粋)

	具体的な課題
地域住民の意識啓発	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習講座等への参加者の確保が難しく、住民の意識啓発の必要性を感じている。 ○講座受講生の構成に偏りがある。(高齢者に偏る、若者の参加がない、固定化されている) ○意識が高い人とそうでない人の差が大きい。 ○学んだ英知の地域への還元が十分できていない。
NPO等民間団体との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> ○どの団体とどこまで関わるのか、また、民間と行政の役割分担を明確にする必要がある。 ○どのような団体があるのか把握できていないし計画もない。 ○支援を求める一部の団体との連携、協働は行っているが、生涯学習に関連するNPOとの連携が取れていない。 ○営利事業にならない工夫が必要である。
生涯学習活動の指導者養成・活用	<ul style="list-style-type: none"> ○人材バンクを設けているが、活用されていないため制度自体を見直す必要がある。 ○講座の内容によっては対応できる講師が市内におらず、市外や県外から招聘する必要がある。 ○指導者の育成が停滞しており、新規指導者の発掘が課題である。(指導者の高齢化) ○講座については住民の方に積極的に受講をしていただけるが、その後、サークル活動のリーダーとして、活発に活動していただける方がいない。またその養成方法が難しい。 ○好評な講座の講師の情報をもっと各公民館で共有したい。 ○定年後も働く人がほとんどで、時間に余裕がない人が多い。
生涯学習を推進する人材の養成・活用	<ul style="list-style-type: none"> ○地域づくり、まちづくりへと人材が広がっていくような人材の養成等を行ってはいるが、その成果が目に見えにくい。 ○生涯学習のコーディネーターとなる人材が不足している。(高齢化、固定化) ○人材育成は若いうちから取り組む必要があると考えるが、仕事や子育て等、時間的な余裕がない。一方、リタイアした世代の方の活用も考えるが、引き受け手がいない。 ○地域住民の、地域活動への参加意識が低下している。 ○推進するという使命感があるのは公民館職員であって、一般の地域住民にはない。
学校教育との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域に根差した活動」というよりは「全市的な」事業展開となっており、どのように「地域」を意識付けしていけるか検討中である。 ○コミュニティスクールに関連した地域学校協働活動については、連携して事業を進めているが、他の事業については、積極的な連携は行っていない。 ○学習活動の一環として公民館は利用されているが、それ以外の連携はあまりない。 ○学校との連携、情報交換等が不足している。(学校行事との兼ね合い、担当教員の姿勢の差) ○先生、児童・生徒が学校内外で多忙のため、連携は遠慮している。

高齢者の活用	<p>○意欲のある高齢者を地域やまちづくりにおいて活躍いただけるようにしたいが、うまく活用できていない。(情報入手が困難)</p> <p>○現状として個人の学びの範囲にとどまってしまう。高齢者が持つ知識や技術を活かして、指導者やボランティアとして活躍できる機会の創出が課題となっている。</p> <p>○各種講座等の指導者、講師を担っているが、後継者が育っておらず、今後が不安である。</p> <p>○継続した活動を続けるための組織作りが難しく、長期的な計画が立てにくいことが課題である。</p> <p>○自動車の運転ができなくなる人が増えているため、活動範囲が制限される。</p> <p>○高齢化を理由に継続が困難になる団体が増えている。高齢者でも公民館に通いやすく、学びやすい内容の学習を提供していくことが課題</p> <p>○定年延長などにより、高齢者も時間的に余裕がない。</p>
行政内部の連携・理解促進	<p>○担当課が行う出前講座の内容が固定的となっており、住民のニーズを捉えた講座を提供してもらえるように理解を促進する必要がある。</p> <p>○生涯学習は高齢者のもの、という意識がある。</p> <p>○職員の削減や縦割り意識等により、内部間連携・理解の醸成が進んでいない。また、生涯学習事業への行政職員の参加が極めて少ない。</p> <p>○推進すべき担当職員の理解及びスキル不足。</p> <p>○内容、日程に近いものをそれぞれの部署で実施していることがあり、調整・連携が必要。</p> <p>○行政改革等により職員が減少、事務量が増加する中で、他部署との連携が取りにくい。</p>
その他	<p>○障がい者等、多様なニーズを必要とする人々への生涯学習の提供について、全体的なニーズがまだ見えておらず、同事業を進めてよいかも見えていない状況である。</p> <p>○各社会教育施設に講座を企画運営する職員がいない。</p> <p>○施設、設備、人手が不足している。</p> <p>○青年育成、成人教育の推進。</p> <p>○高校生や若者、女性の地域づくり活動への参画。</p> <p>○社会の一員としての子どもたちの育成（生き抜く力、地域課題解決）。</p> <p>○行政改革、財政縮小等により、生涯学習を推進する職員が減少しており、事業の見直し、廃止、効率化が進んでいる状況にある。また、新たな事業を起こすことが難しい。</p> <p>○令和元年6月に施行された改正社会教育法に基づき、公民館の所管を首長部局へ移すことを検討している。</p> <p>○クラブ・サークル活動だけでなく、一般団体・個人の施設利用が増えたため、施設の部屋の空き状況が減り、講座の運営に支障が出る場合がある。</p> <p>○外国人利用者への注意喚起。</p>

C 「地域づくり型生涯学習」の推進について

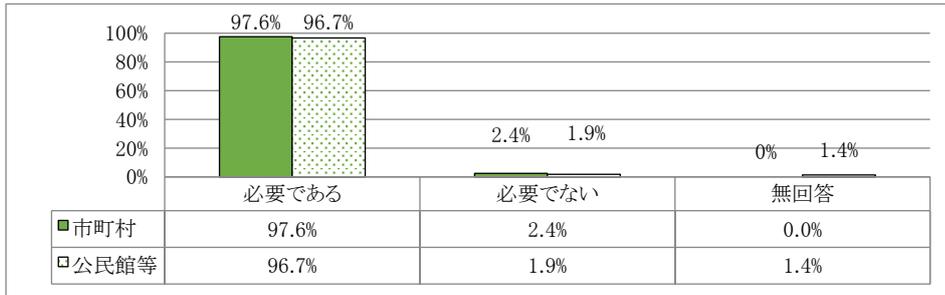
8 「地域づくり型生涯学習」の推進を意識した取組の必要性



○昨年度に続き、「必要でない」とする回答があった。(理由は「生涯学習はもっと気楽に楽しく学ぶべきであると思う。」)

【参考】「必要である」の回答率 H22年度：90.5%、H23年度：92.9%、H24年度：95.2%、H25～26年度：97.6%
H27～28年度：100%、H29年度：92.9%、H30年度：97.6%

<公民館等生涯学習施設との比較>



- 生涯学習施設においても、「必要でない」とする回答が見られた。
- 「必要でない」という回答の中でも、必要性は感じながらも、地域住民は必要性を感じていないという推測や、きっかけ作りとしてのハードルを上げてしまうという懸念が見られた。

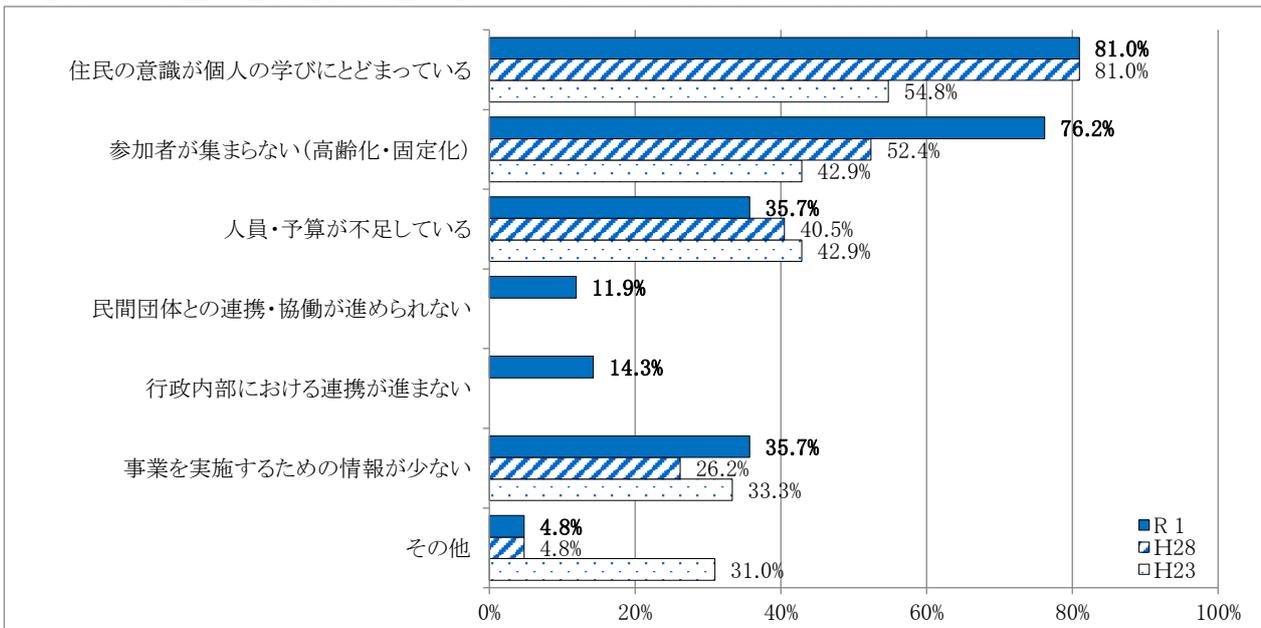
(備考1)「必要である」と考える主な理由(回答より一部抜粋)

- 個人の知識・技術・経験を地域社会の活動の中で活かし役立てていくことで、自己有用感や充実感を得るとともに、その活動を通して学びの輪が広がり、人と人の絆をつなぐこととなるため。
- 地域の住民が集まるきっかけとなり、地域住民同士が交流し、つながりを深め絆づくりにつながっていくと考えられるため。
- 生涯学習活動の指導者(講座の講師、サークル活動のリーダー等)が年々少なくなる中、指導者の確保の1つとして、自身の学びの成果を地域社会に還元していくことは必要と思うため。
- 指導者は他人に教えるために更に知識を深める必要があり、新たな学びについて努力を行い成長する。また、教わる側も学ぶことの楽しさを知り、お互いに相乗効果がある。人とのつながりが生まれ、地域が活性化していく。
- 高齢化が進み、担い手が不足する中、様々な地域課題への対応には、住民自らの手で課題解決に向かう意識が必要であると考えられるため。
- 講座の卒業生がボランティアガイドとして活躍しており、学びの成果を地域に役立てることの必要性を感じているため。
- 自らの学びを次世代に継承していくことが重要であると考えられるため。(子どもの地元愛を育てる)
- 知識や経験などを必要としている人がいればマッチングを行うなど、学校や地域住民との連携を行うにも、地域づくり型生涯学習は必要である。
- 地域学校協働活動本部設置に向けて、地域づくり型生涯学習の推進を重点として取り組んでいるため。
- 地域社会での活躍の場づくりや、学校等での人材活用の観点から必要である。
- 行政だけで対応できる部分は限られているから、自ら動ける市民を少しでも増やせるとよいから。(自助力の養成)
- 行政主導の講座は単発的なものが多く、継続性、循環性を生むためには市民同士の学びあいが欠かせないと思うため。
- 行政からの補助(使用料免除等)を受けている団体は、地域に貢献できる場があれば活躍すべきである。
- 公民館が「地域コミュニティの維持と持続的な発展を推進するセンター的役割」を果たしていくためには、地域づくり型の生涯学習・社会教育が必要であるため。
- 公共施設で公費をつかって実施している講座であれば、結果としてまちづくりや仲間づくりに繋がらなければ理解が得られない。
- 地域に根差した伝統芸能などを今後も絶やすことなく、応援していきたいと考えているため。(子ども達への伝承)

(備考2)「必要でない」と考える主な理由(回答より一部抜粋)

- 生涯学習はもっと気楽に楽しく学ぶべきであると思う。
- 必要であると思うが、参加者は公民館の生涯学習講座を安価なカルチャーセンターの講座と同じであると考えていると思われる。
- 目的を設定すると、始めるきっかけとしてのハードルが上がってしまうと思う。
- 興味のある方の一部が取り組むだけで、地域全体(特に若者)は必要性を感じていない気がする。

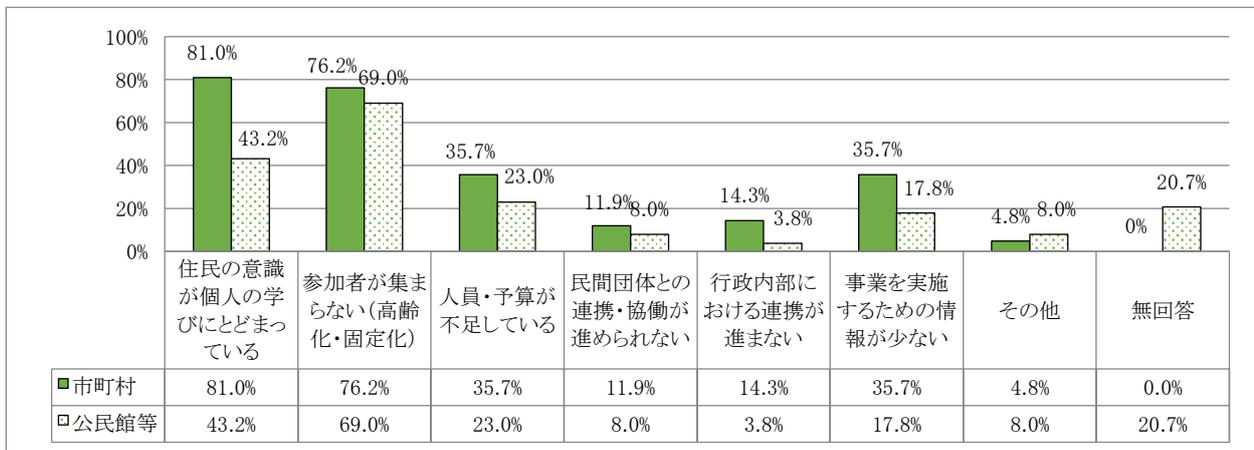
9 「地域づくり型生涯学習」を進める上での問題点や課題（複数回答）



※H23年度・平成28年度の調査では、「民間団体との連携・協働」、「行政内部の理解・協力」を課題として選択肢にあげていないため、グラフに反映されていない。

- 「住民の意識が個人の学びにとどまっている」のポイントは変わらず高い。また、「参加者が集まらない」のポイントが大きく上昇しており、講座の運営に苦慮している現状が表れている。
- 「事業を実施するための情報が少ない」のポイントが再上昇しており、講師情報や先進的取組等の情報をいかに発信していくかが県の課題といえる。

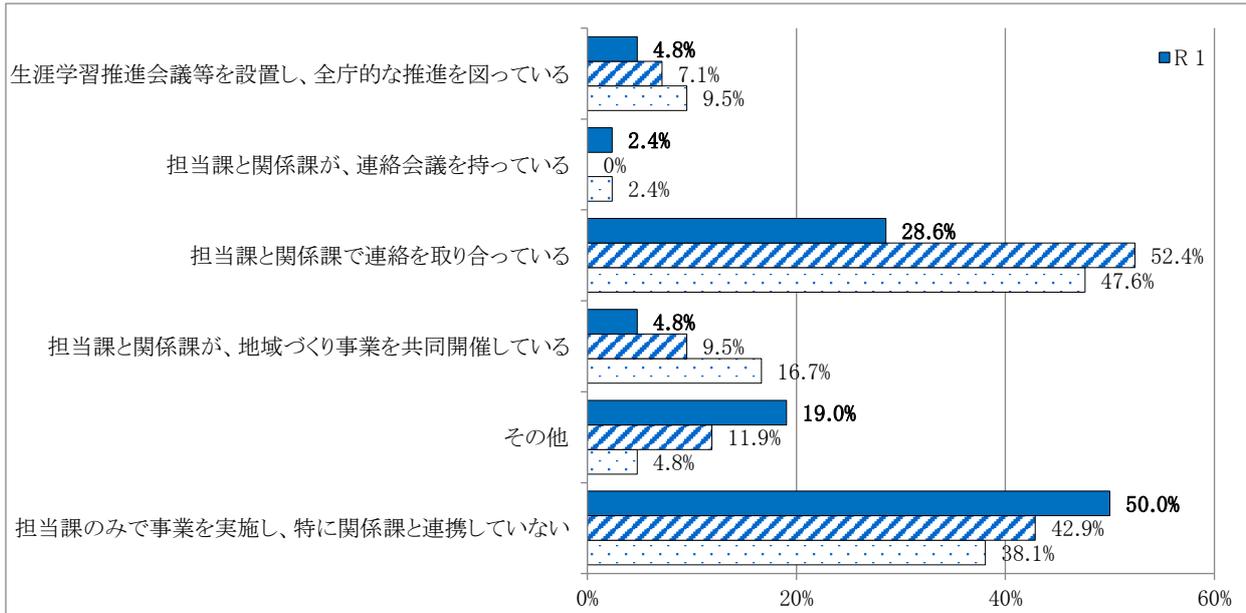
<公民館等生涯学習施設との比較>



- 生涯学習施設は、市町村に比べ「住民の意識が個人の学びにとどまっている」ことに対する課題意識が低く、個人にとどまらないような対策を進めていると推測できる一方、そのこと自体を否定的にとらえていない施設が多いとも推測できる。
- 「参加者が集まらない」ことに対しては、市町村同様に課題意識が高い。
- 「その他」として、
 - ・地域学校協働活動を進めていく上で重要となる、コーディネーターを選出できていない。
 - ・まちづくり協議会と連携した地域を支える人材の育成
 - ・各公民館では具体的に、一般市民を対象とした「地域づくり型生涯学習」講座の企画・運営をすることが難しい。
 - ・マーケットやニーズが極めて小さく、結果が期待できない割にコストがかかる。
 - ・具体的な推進の方法がよくわからない、理解できていない。
 - ・地域との関わりを負担と感じる・回避したいという一定の方々がいる。

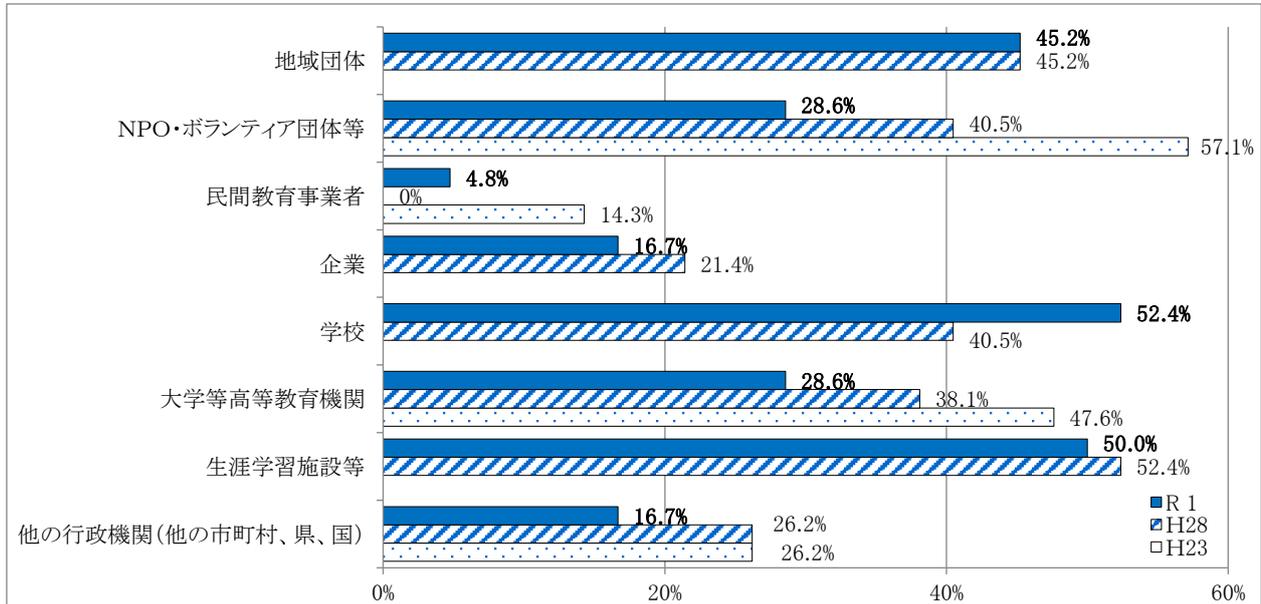
10 庁内担当課（生涯学習担当課と他の生涯学習関係課（まちづくり担当課等）との連携状況（複数回答）

（※行政機関のみに質問したため、生涯学習施設の回答はない）



○関係課との連絡や共同開催のポイントが大きく減少し、半数の市町村が担当課のみで事業を実施しており、行政内部の連携が希薄化していることがわかる。
 ○全庁的な推進のポイントも減少しており、「生涯学習」自体が施策として重要視されなくなっている傾向がうかがえる。

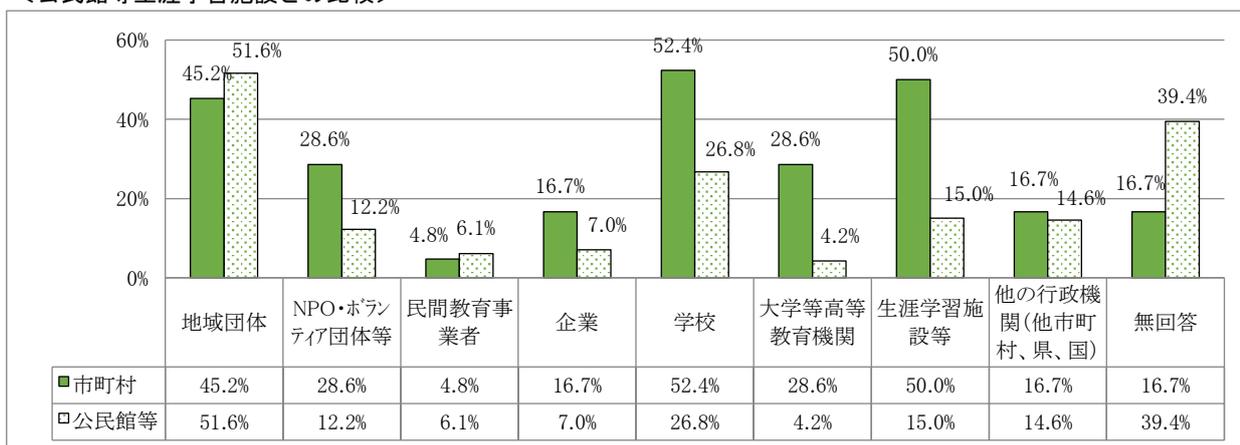
11 生涯学習関係機関・団体との連携（複数回答）



※H23年度は、選択肢に「地域団体」、「企業」、「学校」、「生涯学習施設等」を連携先としてあげていないため、グラフに反映されていない。

○地域団体や学校との連携が進んでいる一方で、NPO・ボランティア団体や大学、企業、他の行政機関との結びつきは弱まっている。

<公民館等生涯学習施設との比較>



●生涯学習施設においても、地域団体との連携が進んでいるが、その他の機関との連携については行政との差が大きい。無回答も多く、外部機関との連携が進んでおらず、行政が調整機関として機能することが望まれる。

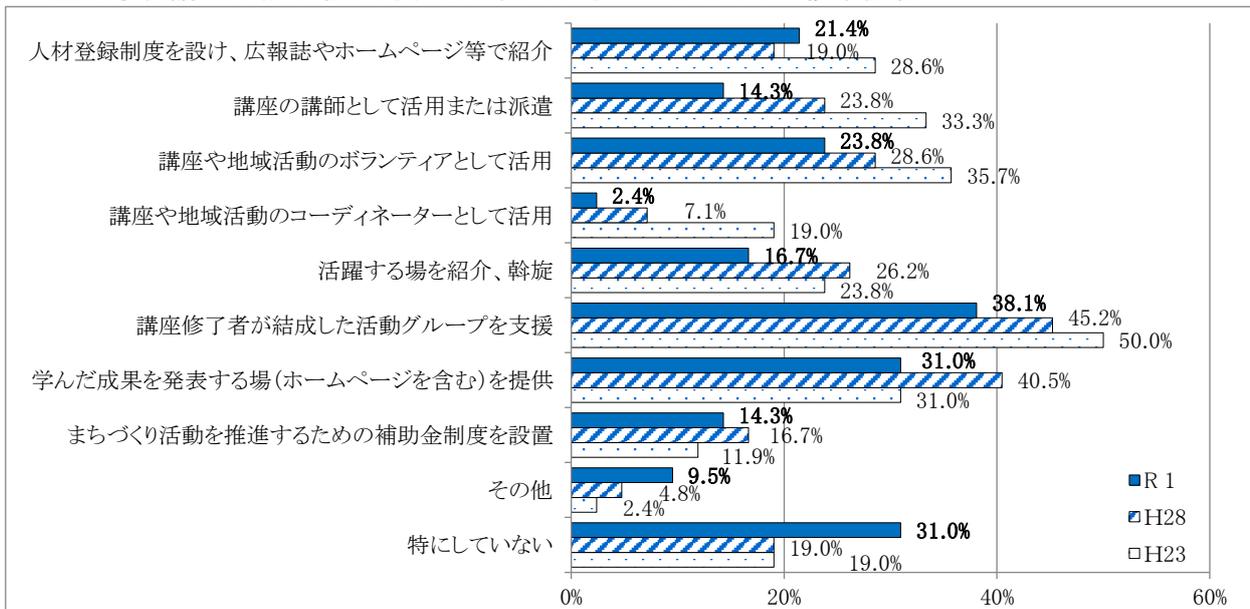
(参考) 生涯学習担当課と生涯学習関係機関・団体との連携内容例 (回答より一部抜粋)

	連携内容・講座例
①地域団体 (自治会・女性の会・子ども会・老人クラブなど)	<ul style="list-style-type: none"> ○地域、自治会の所管課と調整し、生涯学習の推進によってまちづくりを実践している地域等を紹介してもらっている。 ○出前講座により、地域団体が求める講座を提供している。 ○自治会を中心とする校区活動委員会に補助金を出し、文化的・体育的地域活動を企画・運営してもらっている。 ○自治会に依頼して情報誌(公民館講座・教室ガイド)の全戸配布及び啓発を行っている。 ○各自治会の年間を通じた活動を、一枚の用紙にまとめてイベント会場に掲示している。 ○老人クラブ役員会等における呼びかけで、学校で指導する人材を見つけることができた。 ○町行事において各種サークル団体や社会教育団体へ出演依頼を行い、活躍の場を設けている。 ○婦人団体協議会、婦人の会、生活学校、子ども会等各種団体の総会、定例会、関係する各種行事の事務支援や当日運営支援の実施。 ○公民館を利用するクラブ会員が講師となって、小学生向けの講座で指導している。 ○地区社協、まちづくり協議会、小学校放課後クラブなどと事業を共同開催している。
②NPO・ボランティア団体等	<ul style="list-style-type: none"> ○各種団体と連携して講座を実施している。(講師依頼) ○土曜日の教育支援体制事業として、市内の児童生徒を対象に、各公民館において地域の人材を活用した講座を開設している。 ○NPO法人に生涯学習作品展、生涯学習コーディネーター養成講座等の運営を委託している。 ○子育て講座などを開催する際、家庭教育支援チーム等に託児を依頼している。 ○一部団体に補助金を交付している。 ○団体登録を行い、団体と市民のコーディネートを行っている。
③民間教育事業者 (カルチャーセンターなど)	<ul style="list-style-type: none"> ○香道、寄せ植え、終活、マクロビ、管理栄養等それぞれの専門家による講座の開設。 ○パソコン教室等の公民館講座講師、スイミングスクール等の講師を依頼している。
④企業	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども対象の講座で、市内事業所から仕入れを行ったり、子どもが考える商品企画を実現していただいたりしている。 ○工場見学等の学習機会の提供を受けている。 ○企業(食品など)からの講師招聘、施設見学等を実施し、生活の中の身近なテーマについて学習している。 ○企業のCSR(社会貢献)活動を活用した講座(受講料は不要)を実施している。 ○子どもたちの夏休み体験学習を、企業と連携して実施した。 ○地元のケーブルテレビにスマホ講座の講師を依頼した。

<p>⑤学校 (幼稚園、小・中学校、高校、特別支援学校等)</p>	<p>○児童生徒を対象とする市の催しの案内、募集をお願いしている。 ○市内の文化財保存会が、伝統芸能を小学校で指導している。 ○地域内コミュニケーションのあるまちづくりを目的として、小学校の児童に対して、登校する際にあいさつを兼ねてハイタッチを行っている。○土曜授業や総合的な学習の時間に、地域の方々を講師として招いている。○中学生を各種地域行事にボランティアスタッフとして迎え、ボランティア活動を通じた社会教育を実践している。 ○地域づくり事業において、中学生に企画・運営・司会進行をしてもらっている。 ○ふるさと教育に協力できる人材や、まちづくり活動を行う団体の紹介をしている。 ○地元高校生による親子教室を行っている。 ○高校生ボランティアによる学習支援補助を行っている。 ○地域学校協働活動に関する状況調査を実施し、両者の学習推進に資する題材・人材の発掘を進めている。 ○学校運営協議会設置に伴う、地域学校協働活動の促進。 ○地域の運動会や文化祭に、学校として参加してもらっている。(出場の機会を設ける)</p>
<p>⑥大学等高等教育機関</p>	<p>○大学と連携し講座を開講している。 ○生涯学習推進協議会の委員として、また、基本計画の策定において連携を図っている。 ○教育実習に来ていた大学生に、中学校の夏休み学習会のサポートに入ってもらった。 ○土曜日の小学生講座において、大学生にレクリエーションなどの講座を依頼している。 ○市主催のセミナーを大学へ委託し、大学キャンパスを会場として実施している。 ○大学教授を招いて「地域づくり型生涯学習モデル事業」のプランづくりと実行に向け取り組んでいる。</p>
<p>⑦生涯学習施設等 (公民館、コミュニティセンター、図書館など)</p>	<p>○講座企画の際に、コミュニティセンター等で活躍している地域の講師等の情報提供を依頼し、活用を検討している。 ○各公民館へ活動振興補助金を交付し、地域で活動する団体の発表や地域行事を行っている。 ○講座・教室については、公民館が主体となって実施しており、定例会議を開催するなどして連携を図っている。 ○地域教育推進事業を施設にて定期的開催している。地元小学生と地元人材との結びつきができています。 ○地域づくり活動の場、情報発信・交換の場として連携している。 ○講座の広報活動、会場提供、会の運営補助を行っている。 ○公民館、図書室及び絵画展示施設に様々な活動により作成した作品の展示を行っている。 ○生涯学習指導者バンクを設置しており、今年度は生涯学習課主催のおためし講座としてボディペイントの技能を有する指導者が、公民館まつりにてペイントの講座を行った。 ○他の公民館と情報交換・共有している。(講座情報、講師紹介) ○テレビ会議システムにより、中央公民館と同時に講座を開催している。</p>
<p>⑧他の行政機関 (他の市町村、県、国)</p>	<p>○岐阜県生涯学習振興指針を参考に市の生涯学習推進を図っている。 ○西濃地域の市町にて、西美濃生涯学習連携講座を実施している。 ○「みのかも定住自立圏構想」のもと、情報誌の刊行・ホームページの共同運営や地域づくり活動グループへの支援を行っている。 ○県の出前講座を活用している。 ○担当者会議や研修会で情報交換等を行っている。 ○岐阜県及び他市町等と連携し地域づくり活動グループを支援した。</p>

D 人材の育成・活用について

1 2 生涯学習講座の修了者に対する取組（フォローアップ）（複数回答）

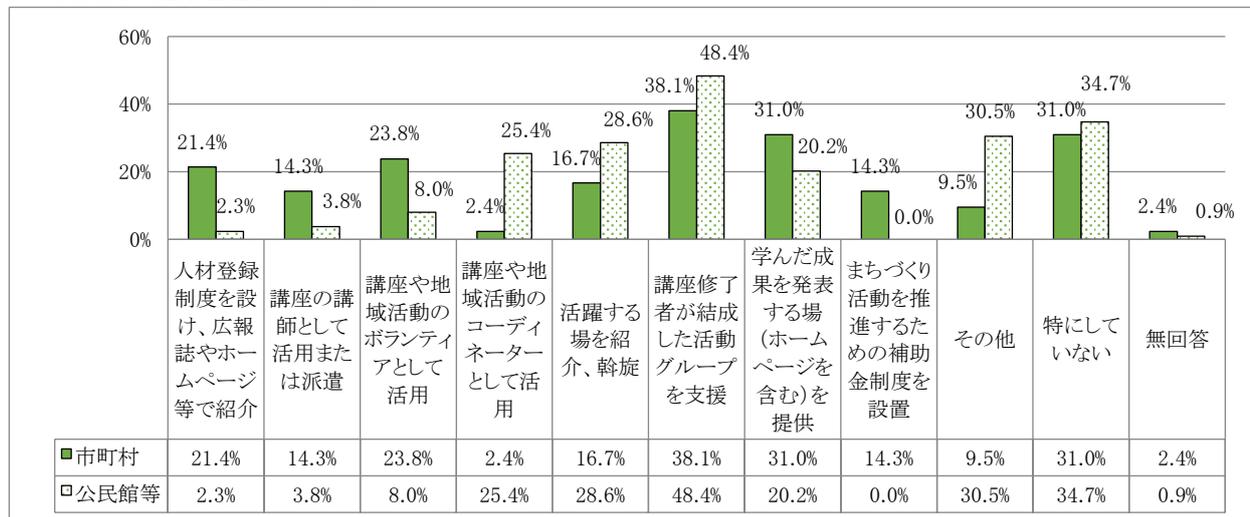


○講師やボランティア、コーディネーターとしての活用、活躍の場の紹介、講座修了者のグループの支援といった直接的・具体的な取組は減少している。

○指導者の育成（特に、生涯学習活動を指導する人材の育成・活用）を課題としながら、講座修了者に対するフォローアップができていない市町村が増加している。（→ P.8「7. 生涯学習推進上の課題」参照）

○後継者育成の観点からも、講座修了者が活躍できる場所を具体的に検討していく必要がある。

<公民館等生涯学習施設との比較>

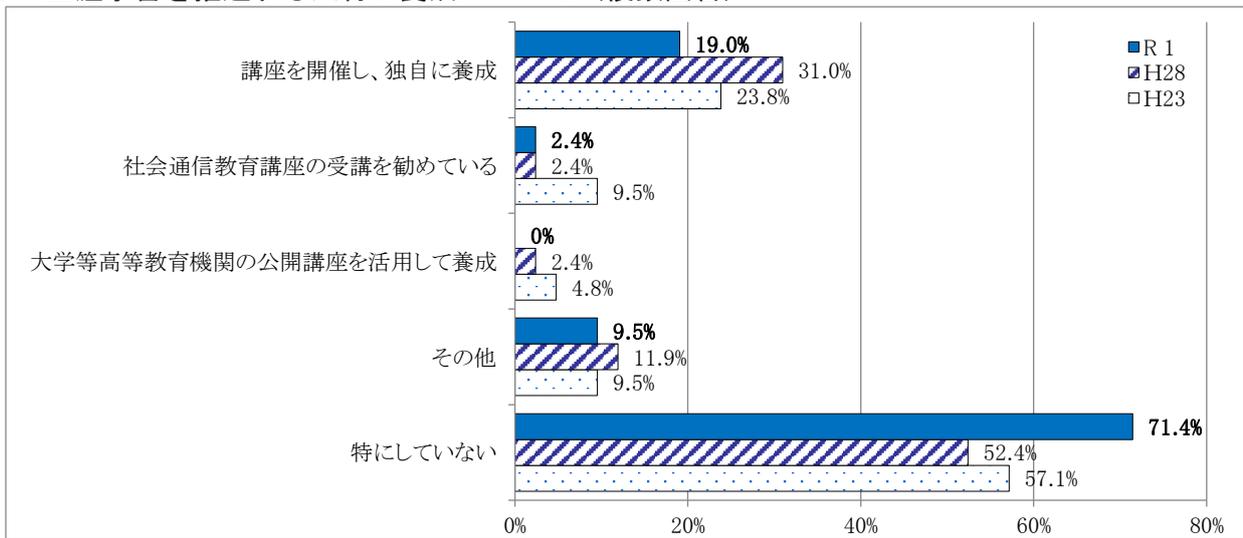


●生涯学習施設は、市町村に比べて講師、ボランティアとしての活用は低い一方で、コーディネーターとしての活用や活躍の場の創出、講座修了者のグループ支援に対する意識は高い。

●「特にしていない」の割合は市町村と同様に高く、行政と連携の上、後継者を育成するための具体的手立てを検討し、継続的に生涯学習を推進していく体制を整えていく必要がある。

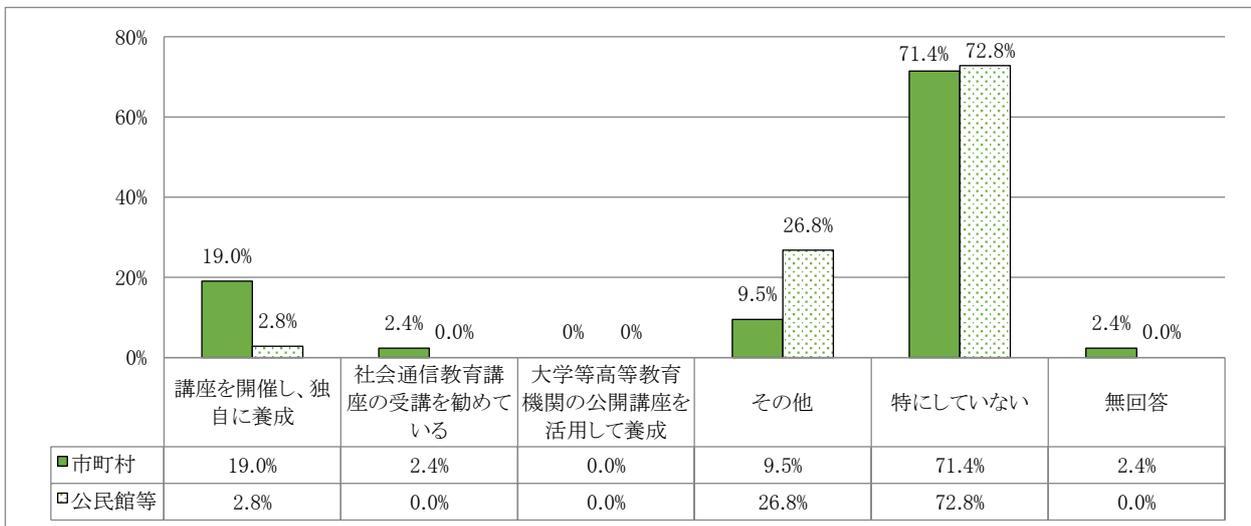
●講座修了者の自主講座開催のための支援を行っている市町村・施設もある。

1.3 生涯学習を推進する人材の養成について（複数回答）



- 人材を独自に養成している市町村では、コーディネーター、ボランティア、活動サポーター等の養成講座を行っている。（講座修了者に修了証や認証を与える市町村もある。（ポイント制も））
- 講座受講者に対するフォローアップを行う市町村が減少しているのと同様に、生涯学習を推進する人材養成を行っていない市町村が急増している。（→ P.16「12. 生涯学習講座の修了者に対する取組について」参照）
- 国や県からの人材育成に関わる研修会等の情報を関係者に提供して受講を勧めたり、講座受講の費用を助成したりして、間接的に支援している市町村もある。

<公民館等生涯学習施設との比較>

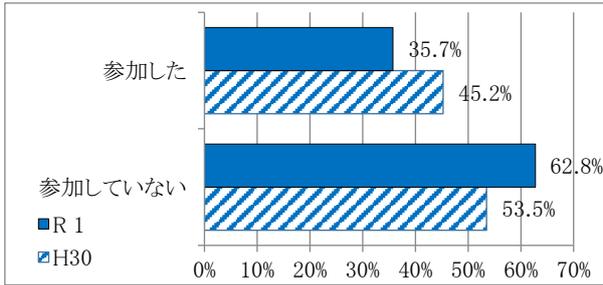


- 多くの生涯学習施設で、市町村と同様に人材の養成が行われていない。
- 公民館講座を主宰する公民館長・公民館主事が、講座の開催を通じて生涯学習を推進する人材として養成されているという回答も見られた。より多く養成するためには、職員のみにとどまらず、地域住民の中から人材を養成していく必要がある。

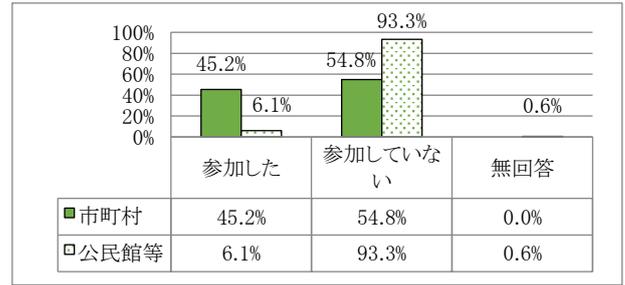
E 『岐阜県生涯学習振興指針』に基づいた各種事業について

1 4 - 1 「岐阜県生涯学習・社会教育総合推進会議」について

(1) 会議の参加率



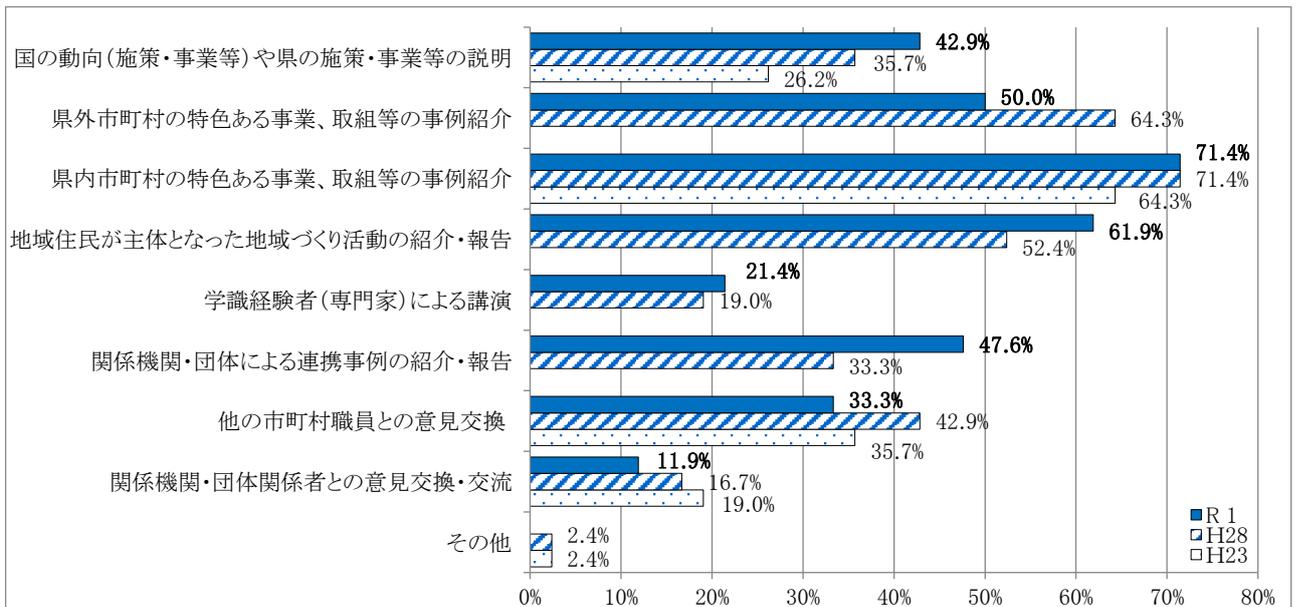
<公民館等生涯学習施設との比較>



※昨年度からの新規調査項目

- 市町村担当職員、生涯学習施設職員ともに参加率が50%以下である。開催日、内容等について、検討する必要がある。
- 施設業務のため、施設職員の参加率は極端に低いが、「開催について知らなかった」等の意見もあり、周知方法についても検討が必要である。

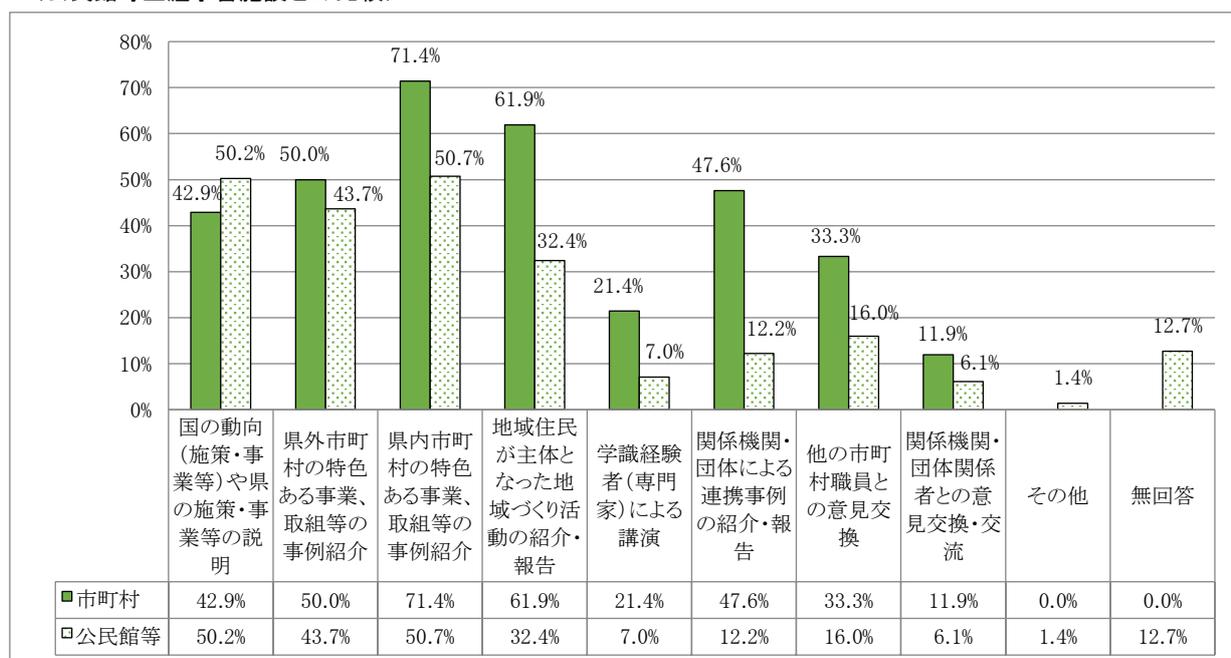
(2) 会議に望むこと（複数回答）



※H23年度は選択肢に「県外市町村の特色ある事業、取り組みの事例紹介」「地域住民が主体となった地域づくり活動の紹介・報告」「関係機関・団体による連携事例の紹介・報告」「学識経験者(専門家)による講演」を挙げていないため、グラフに反映されていない。

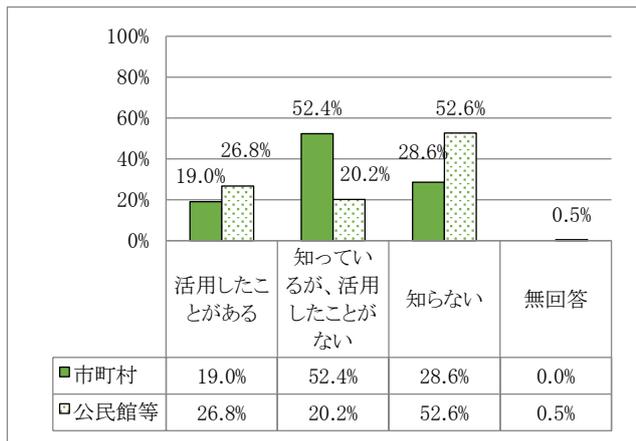
- 「先進的事例の報告」を要望する市町村が多い。生涯学習の推進に役立つ情報をいかに収集し、発信していくかが県の課題である。
- 「国の動向や県の施策・事業等の説明」を要望する市町村が増加しており、生涯学習及び社会教育を取り巻く情勢が大きく変化していることが要因であると考えられる。
- 「地域住民が主体となった地域づくり活動の紹介・報告」、「関係機関・団体による連携事例の紹介・報告」のポイントが増加していることから、地域住民が各種団体と連携しながら「地域づくり」に取り組むことの必要性について認識されつつあることが分かる。

<公民館等生涯学習施設との比較>

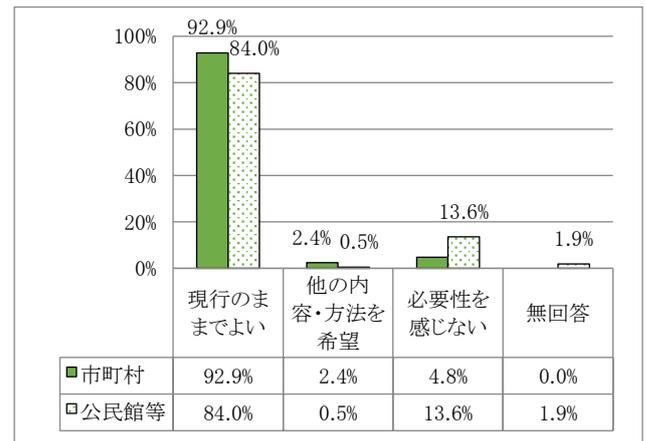


- 生涯学習施設においても、市町村と同様に「先進的事例の報告」に対する要望が多いことから、魅力ある取組をいかに展開していくかが課題となっていることが背景にあると推測される。
- 「国の動向や県の施策・事業等の説明」に対する要望も多くあるため、県としても国の動向を踏まえた上での、県の方向性を明確に示す必要がある。
- 生涯学習施設は無回答も多く見られ、会議自体の認知度が低いことに加え、会議への関心が低いことも推測される。

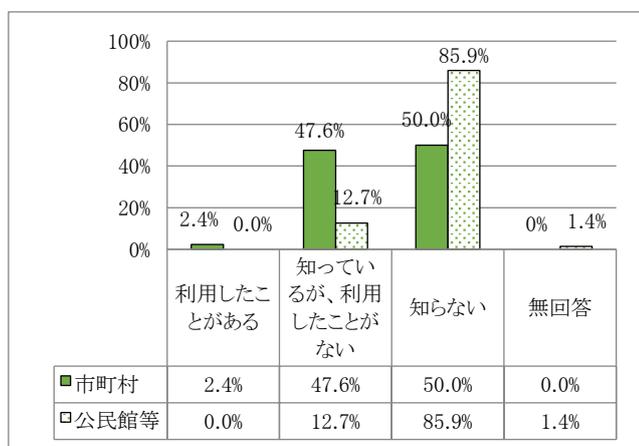
14-2 「生涯学習情報提供」について



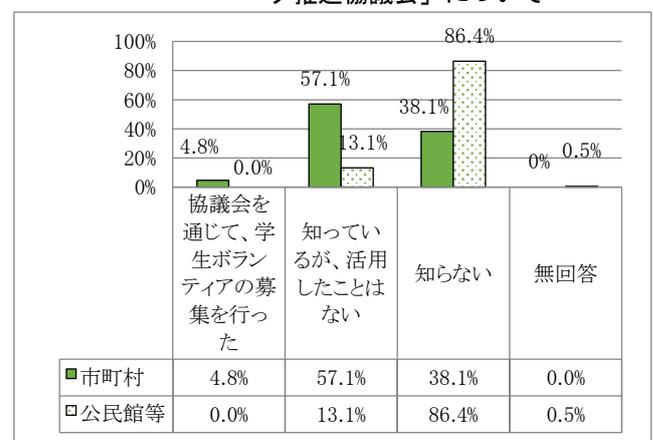
14-3 「GIFU 生涯学習メールマガジン」について



14-4 「生涯学習相談窓口」について



14-5 「ぎふ学生ボランティア・地域活動ネットワーク推進協議会」について



※「14-3 GIFU 生涯学習メールマガジン」については、生涯学習施設は配信登録されていないため、「必要性を感じない」「無回答」が多くなっている。

○各事業において、「知らない」の回答が多く（特に、生涯学習施設で顕著）、事業周知ができていない実態が浮き彫りとなった。各種事業の見直しを行うとともに、県一市町村一施設の役割を明確にしつつ、情報や支援が行き届く体制を整備する必要がある。

「活用したことがない」「必要性を感じない」の理由

○14-2「生涯学習情報提供」について

- ・既存講師の活用で充足しているため。
- ・活用するほどこちらの体制が整っていない。
- ・きっかけがなく活用に至らない。
- ・周辺地域の登録情報が少ないため。

○14-3「GIFU生涯学習メールマガジン」について

- ・存在を知らないし、使わない。
- ・生涯学習に対して大いに積極的でないと登録をしない。
- ・10代のメール利用率が低い。

○14-4「生涯学習相談窓口」について

- ・市町村にも同様の相談窓口があるため。
- ・遠方であり、地域事情の説明の必要性があるため、事情を知る課内での相談が中心となるため。
- ・こちらの相談する内容が明確でない。

○14-5「ぎふ学生ボランティア・地域活動ネットワーク推進協議会」について

- ・近隣大学との連携が取れているため。
- ・存在を忘れてしまう。存在感が少ない。
- ・学生ボランティアの活用について検討していない。
- ・学生ボランティアを活用する機会がない。

15 その他、生涯学習の推進に関する意見・要望等

- 生涯学習の拠点となる社会教育施設の老朽化対策等に係る施策を考えていただきたい。
- 「地域づくり型生涯学習」は今後ますます必要になると思う。ただし、地域によって（例えば都市部と過疎地域）取り組みが異なると思う。毎年、この結果は公表されていて全体の傾向は分かるが、できれば具体的な事例等が分かるものがあるとありがたい。
- 県の行っている生涯学習事業のことが地方の末端地区センターまで届いていない。（県の事業とのつながりが直接無い）
- 広域的に会議や研修会を開催していくのは、良いことだと思う。ただ、講演等の内容として県外市町村で地域の特色が異なる事業・取組の事例説明が多いので、県内市町村の中でもっと身近で地域の特色が多少類似している事業・取組の事例説明をしてみると理解しやすいと思う。
- HPに頼るのは、事例を探すことであり、マガジンをはじめとして活字の中からその内容にたどりつくのは容易ではないと感じる。いきなり検索サイトに思い付いた文言を入力して、ひたすらイメージや現状に合いそうなものを探している。県HPで多くの研修内容があり丁寧に紹介されているので、事例の検索が容易になるようご検討いただけると良いかと感じている。
- 地域格差や所得格差が深刻化し、財政に余裕のない市町村では職員不足を補う臨時職員の雇用が進んでいる。当公民館も臨時職員に限られた時間の中で日々事務処理を行っているため、国や県が思い描く生涯学習の推進は極めて難しい状況であることを理解の上、今後の事業推進を検討いただきたい。
- 新規事業を開発するには予算が限られており、県内の公民館のネットワークをもっと強化し、事業運営のノウハウやプログラムの共有が簡単にできれば効率よく事業を進めることができると思う。
- 正直なところ、市や町ならともかく県と地区公民館とのつながりは全く感じられない。地域住民の生涯学習の最前線である公民館への県からの働きかけはこのアンケートだけか。県からも最下流の地区公民館へもっと情報提供する必要があると感じる。それとも市で止まっているのか。
- 少子高齢化が進む中で、地域活性化は大切だと考えている。この調査結果がどのように施策に生かされているのか。
- 高齢化社会を迎え、生きがいを見つけ学習することは大変重要であると考え。分かりやすい参加型学習が可能となれば良いと思う。
- セミナーや研修会のお知らせをメールで送信してもらいたい。